

2003年度修士設計

ひろめ市場と追手前小学校跡地の景観計画とデザイン

2004年1月

指導教員 重山陽一郎助教授

高知工科大学大学院基盤工学専攻
社会システム工学コース 1065005
飯田 朋

Landscape Planning and Design of the site of Hirome market and Otemae Elementary School

Infrastructure Systems Engineering Course
1065005 Tomo Iida

Landscape Planning and Design of the site of Hirome market and Otemae Elementary School aim central city invigoration.

The back ground factors:

The central city of Kochi has the following problem.

- Inauguration retail power center
- Decline in population
- Aging of population
- There is no attractive open space.
- The whole excursion of the city is low.

The decline of central city of Kochi proceeds by having these many problems. Ameliorate these conditions and to be crowded place with many people in this place every day. For that purpose, it be create the comfortable attractive space not only tourists but also resident there.

This design concepts were as follows

■ Comfortable residence in the city

- Beautiful scenery

The height of the building is restricted and it gives careful consideration to the surrounding landscape.

- Residence of multigenerational

Young men and an old men are equally comfortable, and convenient life can be done in the city.

Day care center is arranged into the site.

■ Active town

- Attractive open space

Sorting of the open space by the level.

General public use a public open space.

Resident and day care center user use common open space.

Correspondence to the climate using temporary tent and Eaves.

- Improvement in the excursion

Improvement of infrastructure of pedestrian precinct.

keyword:

Landscape design
central city invigoration
public open space
common open space

要旨

本修士設計は、高知県高知市の中心市街地に位置する、ひろめ市場と高知市立追手前小学校跡地における新たな施設等の計画とデザイン案を作成するものである。

背景

高知市中心市街地は高知市の政治、経済、文化の中心地であり、国県市の行政機関や学校等多くの都市機能が集積し、長い歴史の中で文化、伝統を育み、各種の機能を培い、人々の生活、交流の場として発展してきた。

しかし今日では、郊外への人口の流出や郊外の大型ショッピングセンターの出店に伴う中心市街地の空洞化や商業施設の衰退、少子高齢化、時代の変化に伴う人々のライフスタイルの変化への対応不足等により、その活力は失われつつある。

また、魅力的な屋外オープンスペースが少なく、街全体の回遊性が低く街の中の個々の魅力が十分に発揮されていない。

目的

本修士設計の目的は、中心市街地活性化でありその為には、この場所が日々、多くの人で賑わう必要がある。その為には観光客だけでなく、ここに住まう人々にとっても快適で魅力的な空間を創造する必要がある。故に、高知市中心市街地が抱える以下の課題に対応した計画・デザインを行う。

■中心市街地の集客力の向上や魅力の強化へ向けた商業施設の充実。

■人口の定住、高齢社会への対応等を考慮した都市型居住の提案。

■交公共交通機関の利便性の向上や自動車交通の円滑化、快適な歩行者空間の確保等交通機関の整備。

■居住者と観光客が共に魅力を感じ、快適に楽しみながら過ごす事のできる、魅力的な屋外オープンスペースと歩行者空間の整備や回遊性の強化。

■周辺環境に配慮した魅力的な都市景観の形成

■周辺商店街等に波及効果をもたらすことのできる高知市の中心市街地の新たな西の核となる様な施設等の提案

敷地の現況

追手前小学校は、高知市の中央部にあり、東は新堀小学校区、西は第六小学校区、南は鏡川、北は江の口川に接し西には高知城がある。

追手前小学校は少子化により新堀小学校との統合され廃校になることが検討されている。

ひろめ市場は、高知市中心市街地の西の核であり、屋根付の市場内には飲食店、鮮魚店、食肉店、駄菓子屋などが集まり、「駐車場機能を合わせ持った地域の食文化・地場産業の発信基地」として機能しており、数年後には再開発により廃止される予定である。

現況の用途が失われる可能性があるこれらの敷地において、高知市の中心市街地を活性化させる為の新たな施設等の提案を行う。

全体コンセプト

■快適な都市型居住

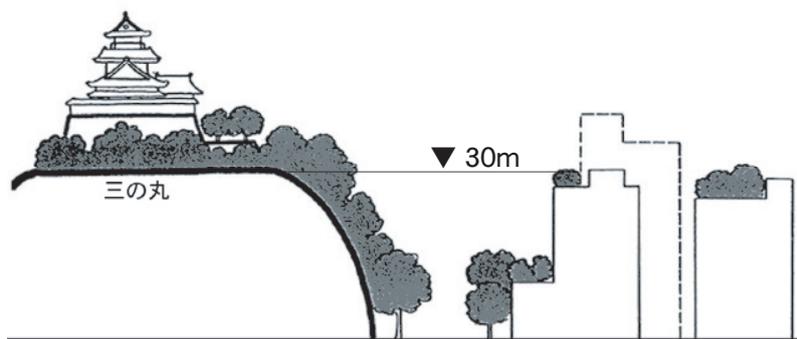
- ・美しい風景
- ・多世代が居住

■活気のあるまち

- ・魅力的なオープンスペース
- ・回遊性の向上

景観計画・デザインの基本方針

■高知城からの景観に配慮した施設配置

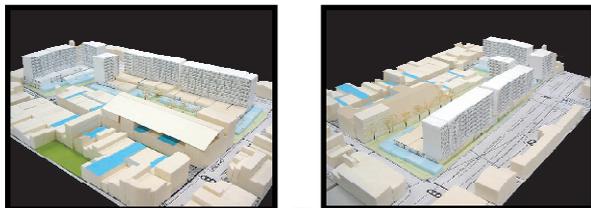


配置する施設の高さを三の丸（30m以下）に制限する

快適な都市型居住のためには、風景が美しいことが大切であり、高知城天守閣からの眺めはこの辺りの大切な財産であり、このような風景は、将来も守り育てて行く必要がある。

そこで、配置する施設の高さは高知城三の丸（30m）以下として景観の調和に配慮する。

ボリュームの配置



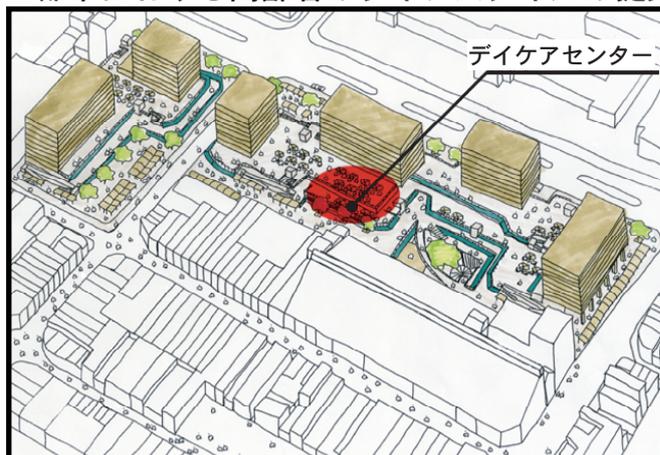
この状態では集合住宅が巨大な壁となり景観的に好ましくない



故に分散して配置する

■幅広い年齢層による都市定住とコミュニティの形成

■都市における高齢者のライフスタイルの提案



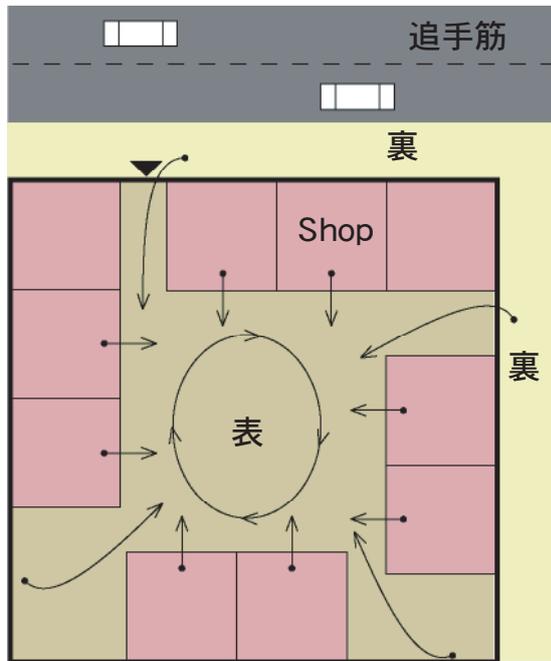
ここには、若者から高齢者まで多くの世代人々が住むことになる。若者にとって、都市に住まうことは通勤通学や、まちで遊ぶのに便利である。老人にとっても歩いてまわれる範囲で買い物や食事をし、病院のサービスを受けることができるのは大切なことである。また、敷地にはデイケアセンターを配置する。

■魅力的な屋外オープンスペースによる新たな賑わいの場の創出

現況のひろめ市場は、周辺の景観を無視し、屋外環境に対して非常に閉鎖的でありテーマパークの様に人々の賑わいが施設内だけで完結している。この状況を改善し、景観の確保はもちろん、賑わいをこの場所だけでは無く街へ波及できるような、本来、街の賑わいの場として相応しい空間を創出する。

ひろめ市場の空間構成

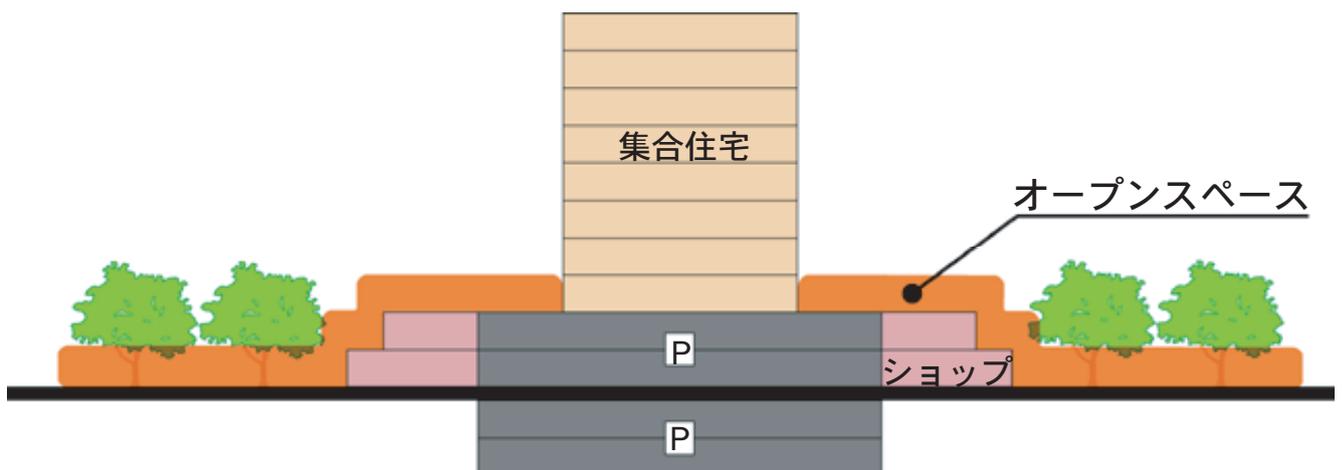
平面図



断面図



設計後の空間構成



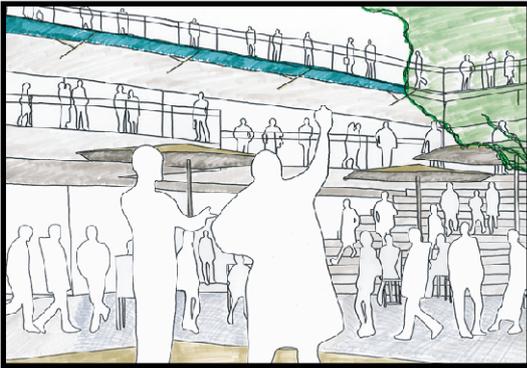
この様に屋内の閉鎖的な空間は駐車場とし、商業施設は屋外に面したものとする。このような空間構成にすることで屋外との接点を増やすとともに、明るい日差しのもとで一日の日の移ろいを感じながら過ごせるようになる。

■コモンオープンスペースと、パブリックオープンスペース

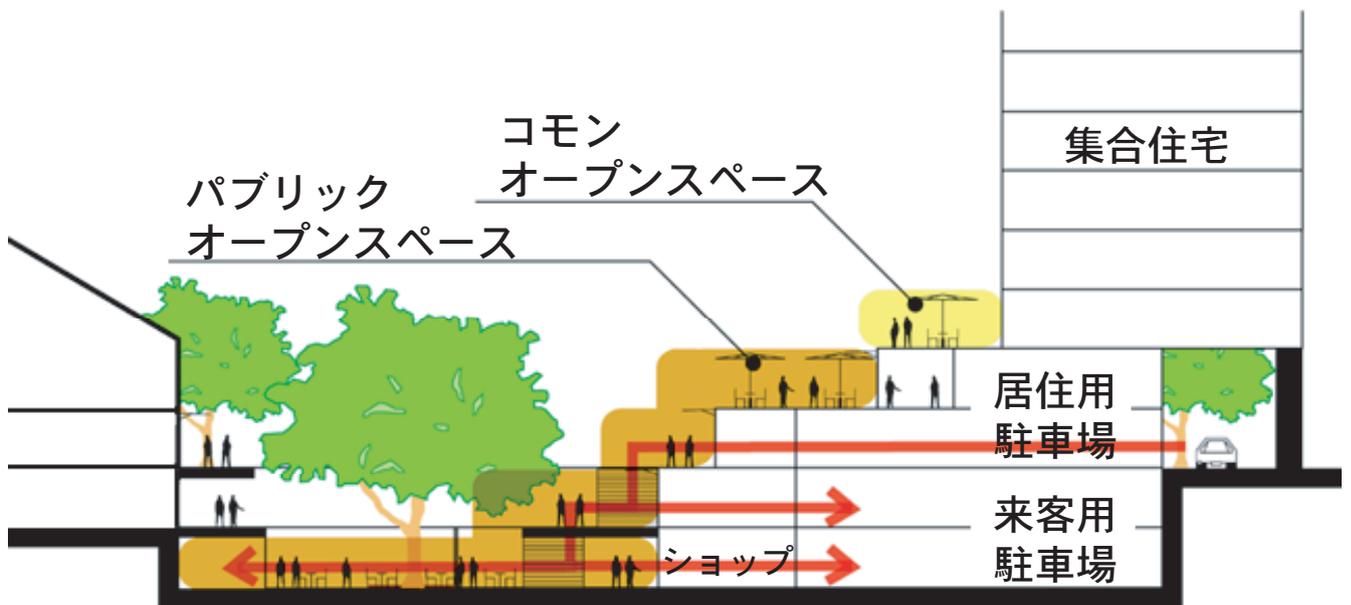


オープンスペースは、コモンオープンスペースとパブリックオープンスペースにわかれている。
 コモンオープンスペースは2Fと3Fにあり、デイケアセンター利用者と集合住宅の居住者のみが利用できる会員制のスペースである。
 パブリックオープンスペースはB2～2Fにあり、誰でも気軽に利用できるスペースになっている。

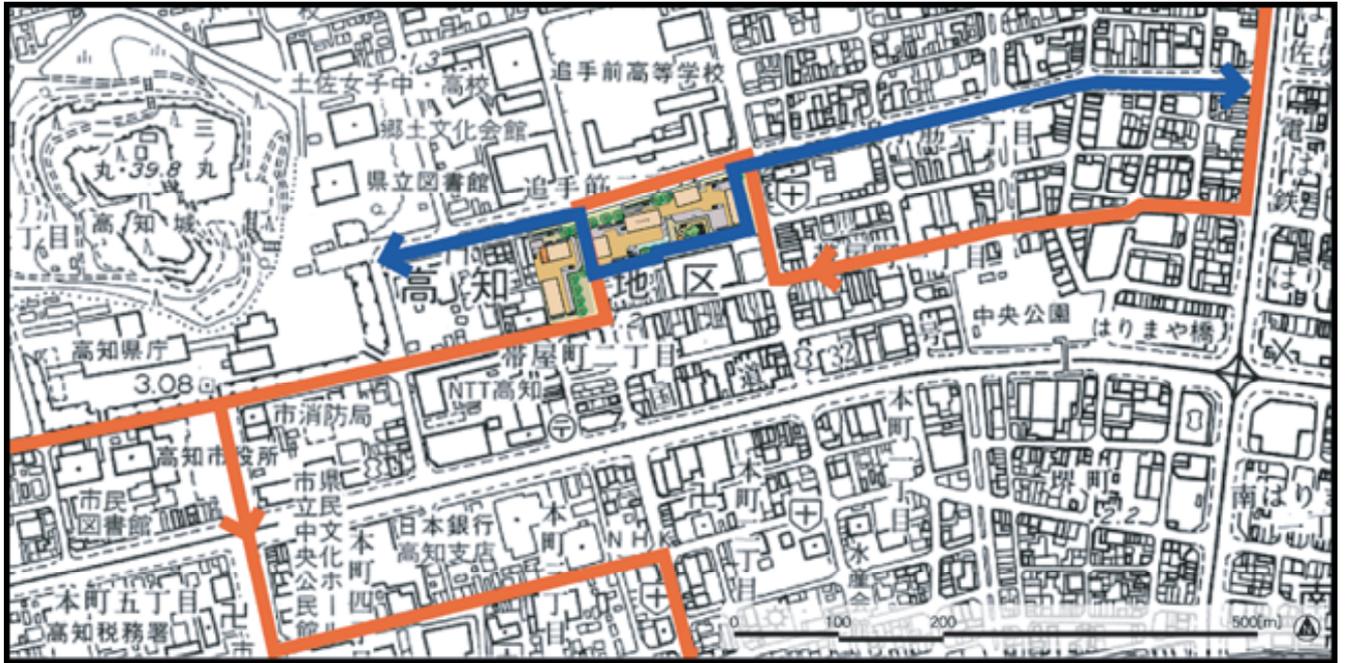
■サンクンガーデンからの眺め



地下駐車場は、サンクンガーデンと繋がっており、車で訪れた人々はサンクンガーデンを通してショッピングやステージで行われるイベントを楽しみながら地上へアクセスすることができる。
 また、ダイエー北側1F、B1の壁面が改修されショップが設けられる様にする。それによって、サンクンガーデンを単なる地下の広場ではなく、敷地と周辺施設（南側の歩行者軸）を結ぶための施設としての役割を持たせる。



■回遊性の向上



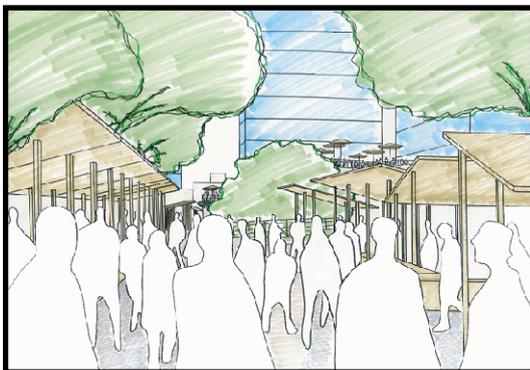
凡例

- 日曜日
- よさこいぐるりんバス

高知市市街地は追手筋、帯屋町筋、おびさんロード等、東西方向の人の流れは充実しているが、南北方向の動線は弱い。そこで、この敷地では、日曜市をクランク状に取り込み、日曜市のにぎわいと、帯屋町筋のにぎわいを合流させる。

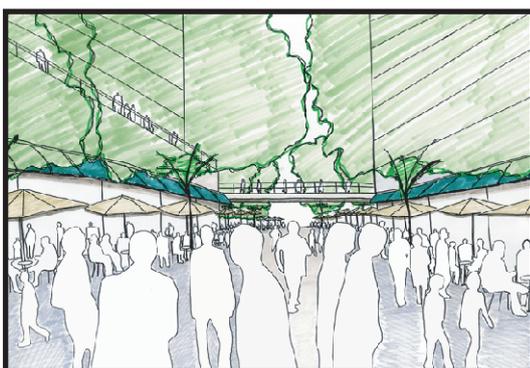
更に、「よさこいぐるりんバス」を電気自動車として帯屋町筋を通し、この敷地も通す事で交通面での利便性を向上させる。

■日曜市を取り込み周辺地域と繋がりを持った歩行者ネットワーク



日曜市を敷地内のパブリックオープンスペースに設けることにより、周辺環境と一体となり、互いに賑わえる様な空間や歩行者動線を創出する。

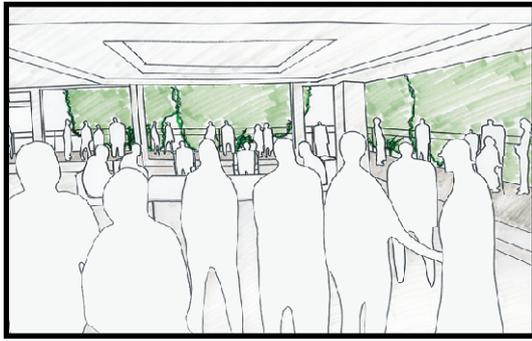
■仮設の parasol や庇による暑さ対策



高知のオープンスペースの問題点として、気候が厳しく屋外で過ごし難いということが挙げられる。その事が、まちの賑わいの衰退に少なからず影響を及ぼしていると思われる。故に人々が屋外でくつろぎ、にぎわえる様な空間を創出する必要がある。

具体的な対処法として、庇、緑陰、仮設のテントや parasol、半屋外空間による気候対策により魅力的で快適なオープンスペースを創出する。

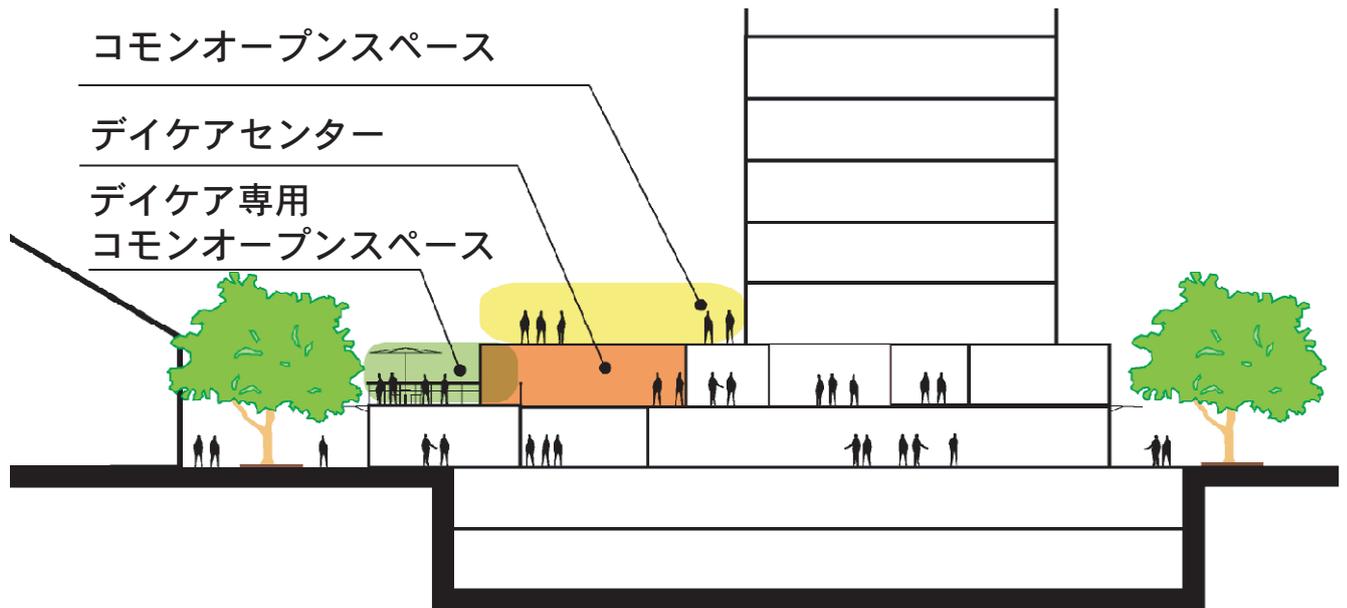
■デイケアセンター



デイケアセンターは敷地の中心の2Fあり、敷地内の住居からも、敷地外からもアクセスが容易となる様に考えられており、また、商業施設とも近く、その気になれば、1Fの都市のにぎわいを楽しむこともできる。

同施設は専用のコモンプースペースを有しており日光浴、リハビリ、菜園等の利用できる。

この様にパブリックオープンスペースとデイケアセンターを空間的に仕切る事で、高齢者が安心して福祉サービスを受られる環境となっている。



■敷地周辺商店街との繋がりを持つ事による賑わいの創出とまち全体への波及



今まで閉鎖的だった空間が、屋外に対して開かれたものとなり、人々が屋外で活発に活動する様になれば、まち全体の回遊性が向上し、賑わいがまち全体へ波及していくものと思われる。

また、ここにはおよそ500人の人々が新たに住うことになり、高知市中心市街地の人口減少に歯止めを掛けることになる。観光客だけで賑わうのではなく、若者から高齢者が等しく快適に暮らし、賑わえる都市型居住空間を創出することで、良好なコミュニティが形成され、日々、多くの人々が賑わう場となる。